日本會計ニ關スル報告

二

114
A 1103
2

大正十一年四月
大蔵大臣官房文書課

大蔵卿ハ鉄道局ノ費用ヲ悉皆右ノ表中ニ算入スベカラサル旨ヲ開陳セリ其然ル所以ノモノハ他ナシ抑〻鉄道局費用ノ部ニハ東京ヨリ京都ニ至ル本道並ニ京都ヨリ琵琶湖ニ至ル支線及ヒ田中ヨリ新浮ニ至ル支線等ノ假測量費其外尚當時築造中ニアリシ大坂京都間ノ鉄道ニ関スル諸雑費等ヲ合算スルヲ以テナリト

到底右ノ表中ニ記載シタル両所ノ鉄道築造ノ為メニ費シタル金額ハ幾許ナリシヤ其精密ナルコハ得テ知ルベカラスト雖モ其費仮令ヒ幾許ニモセヨ千八百七十九年間ノ残額ヲ以テ築造費ノ利子ヲ拂フニ足ラサリシヤ明瞭ナリ尤モ昨年ハ残額一層増殖シ随テ又歳入モ漸々増額スル信スベキナリ

電信
歳入

二万九千四百四十八封度

歳出

差引不足

七万六十九百九封度

尤モ右ハ漸次諸縣至要ノ市街ニ電信線ヲ架設スル為メ前以テ線路ヲ測量セシ諸費用等ヲ算入スルモノユヘ新ル不足ヲ生ス

四万七十四百六十一封度

ル由ヲ大蔵有ヨリ辨明セリ

政府ニテ取設ケ置ク製鐵所製絲場活版局造幣局ノ歳出ニ付テハ何等ノ信據スベキ確報ヲモ得難シ

抑モ政府ガ此等ノ製鐵所ヲ設クルノ意タルヤ素ト人民ヲ奨励シテ此等ノ産業ニ就カシメンガ為メニ出テタルモノニシテ投機者流ノ貪利ヲ為メニスルモノニアラス

旧藩発行紙幣引換ノ一(旧藩発行紙幣ハ藩々ノ領地ニ於テ発行シタルモノナリ)新紙幣発行ノ儀中心政府ハ諸藩々ヘ此新紙幣ヲ引渡シ之レト交換セリ

國債ノ一ハ此報告書中第二篇ニ於テ論述ス

皇族遺料并ニ皇俸

此等ハ皆ナ従来宮内有定額金ノ内ヘ算入セシモノナリシカ自今以後更ニ別款ト成ルベシ

華士族家禄并ニ賞典禄

千八百七十二年ノ人口ニ依レバ華族ノ員数四百五十九名ナリ之ヲ二等ニ分ケ即チ公家二百一名大名二百五十八名ナリ

抑モ公家ハ重モニ皇帝ノ裔族ニシテ且ツ素現ニ侍臣トナルモノ如シ此格式ヲ以テ位大名ノ上ニアリ扨又公家ハ大概領地ヲ有セズシテ皇帝ヨリ米禄ヲ賜ハリタルモノナリキ之レニ反シテ大名ハ軍人社會ニシテ即チ皇帝ノ権威一時衰頽ノ模様アリシ間ニ土地ヲ略シ州郡ヲ所領セシモノナリ且ツ大名相互ニ釁隙ヲ開キシノミナラス或ヒハ又諸将軍及ヒ其黨葉等ト兵端ヲ交ヘシコト実ニ数回ニシテ歳月久シキニ亘リタリ

抑ヽ大名ノ目的タルヤ其獨立ヲ得以テ飽クマテ之ヲ保守セントセルニアリ將軍ノ意志タルヤ以テ之ヲ其幕下ニ服從セシメントセルニアリタリシガ遂ニ二百六十五年前ノ頃徳川家ノ將軍ハ權ヲ得タリ續ヒテ二百年間諸大名共ヲ非江戸表ニ於テ將軍ニ事フルコトヽナリタリ尤モ其中位階ノ卑キ大名共ハ將軍付キ者トナリタリ

凡ソ五十年前ニ大名ノ内ニテ一層有力ナル者數名相與シ以テ再ヒ其獨立ヲ恢復セントタリ畢竟維新ノ改革ヲ將來セシハ此等ノ大名大ニ幕ノ威權ヲ恐恨セシヿ其一ニ居レリ

曩日諸大名等將軍ノ幕下ニアリシ以來ハ往ラニ啻ニ恥ケリ奢侈ヲ極メ其藩々ノ大小事件共悉ク之ヲ藩士中ノ重臣ニ委子タルモノヽ如シ然ルニ維新以來ニ至リテハ諸大名共國事ニ干與セシヿ至サニシテ二三革ヲ除キ實權關係事件ノ外目今別ニ

スルヲ聞カス

抑ヽ士族ハ即チ二刀ヲ帶フル者ノ元來農民ニシテ其所有ノ土地ヲ耕殖セシモノタリ或ル著作者ノ說ニ依レハ士族ハ早リモ八百年代ノ末既ニ連結シテ一種ノ軍人社會ヲ成シタリト然リ然レトモ又此社會編成ノ一タル大名ノ威權愈擴張シテ爲メニ皇帝ノ威力制壓セラルヽ時ニ際シ一層現然タリシト云フ

大名ハ特權漸ヽ增張シ遂ニ半ハ獨立ノ勢ニ立ツニ至リシヲ以テ士ハ其ノ編成ハ各其藩々ヲ保護シ藩主ニ事フルカ爲メニ多クノ益々欠クヘカラサルモノトナリタリ畢竟此等ノ故ヲ以テ士族ハ極古代ニ於テ人民中一種有力ノ社會トナルヲ得タリ

蓋シ士族タル者其始メヤ他事ニ關セスシテ唯ニ一身ヲ軍事ニ歸シ之レカ爲メニ賜ハルニ米祿ヲ以テセリ尤モ何レノ時ヲ論セス充分ノ軍人ヲシテ立ケドコロニ召募ニ應セシメンカ爲

メニ此等ノ米禄ヲ永世給與スルコトセリ然ルニ漸ク歳月ヲ経過スルニ遂テ士族文学ヲ励ミ紛ニ文武ノ両道士族ノ専業トナリシヲ以テ自カラ其國土ノ主宰トスルニ至レリ

尚此外ノ永世士族ノ外ニ維新ノ際其身ノ勲功ヲ以テ終身賞典禄ヲ賜ハリタル者アリ

一 大日本ノ旧政府ノ制ニ於テハ此等ノ禄石ハ皆ナ大名ヨリ之ヲ下渡シタルモノナリシト雖モ千八百七十八年ニ至リ落籍奉還シテ以来中心政府ニ於テ禄石下渡ノコトアリシヲ以テ此時ヨリシテ以来中心政府ニ於テ禄石下渡シノ責任ヲ引受ケルコトナリタリ

茲ニ於テ政府思ヒラク最モ士族ノ職分ヲ要求セザル而已ナラス却テ斯ノ如キ生来ノ士族数万ヲ養フハ其旨ヲ墓セシレトモ同盟スルノ情甚タ切ナリシヲ以テ為メニ物情穏ナラザリシガユヘ(一)大蔵者ニ取リ一大重荷トナリカ之国ノ安危ニ係ハルヲ

ナリシトシ断然之レヲ廃服セシコニ朝議一決セリ然リト雖モ何セン士族ハ幾分カノ年當ヲ受クベキ顕然タル権理ヲ有シ(仮令ヒ米禄ハ廃止セラルトモ)加フルニ頗ル有力ノモノ故之レヲ零分クルニ付キハ厄リ誼慎以テ之ニ従事スルコヲ緊要トセリ

是ヲ以テ政府ハ前大名(維新ノ際大名ハ其旧禄高十分ノ一ヲ奉典セラルヽコトハ載セテ、報告書ノ別章ニアリ)并ニ士族ニ布達シテ凡華士族共其永世禄ヲ奉還セシ者ヘハ六ヶ年分ノ禄高相當ノ金額ヲ半額及ト終身禄ヲ奉還セシ者ヘハ四ヶ年分ノ禄高相當ノ金額ヲ半額ハ正金ヲ額ハ年利八銭附ノ公債証書ヲ以テ付與セリ(但シ訣公債証書ハ外国人ノ外何人ニモ売却譲入等苦シカラザルモノニシテ三ヶ年ノ後政府ノ都合次第引替ニ成ルベキモノナリ)

抑〻此奉還ノ市達ハ千八百七十三年中ニ出デタルモノナレハ
現ニ華士族共大半奉還ヲ拒ミタリ全年ノ豫算表中家禄給與高
ハ二百五十二万二千七百六十三封度ナリ然ルニ千八百七十四
年ニ於テハ三百八十九万千九百八十二封度千八百七十五年
ニハ三百五十一万九千三百十二封度千八百七十六年ニハ三百
九十万三千四百九十封度ナリ即チ平均全国ノ総歳入ノ四分ノ
一ヨリモ遥カニ多シ
此巨額ノ家禄於兵金ヲ用意スルガ為メニ平素太困難ヲ生スル
ハ勢ヒノ然ラシムルモノナリ実ニ政府ハ毎年常例ノ歳入中ヲ
以テ之レニ應ズルノ難キヲ盍ス
家禄奉還恰與金ヲ備ヒンガ為メニ政府ハ全額ヲリモ千八百七
十三年倫敦ニ於テ二百四十万封度ノ公債ヲ募リタリ而メ千八
百七十四年ニ至テハ家禄ニ重税ヲ課シテ以テ恰與高ヲ減ヤ
リ黙ルニ從来士族警備ノ為メニ常備兵ヲ募集シ且ツ之レヲ恰
養スル費等年々増加セシヲ以テ右禄税ノ零置モ大蔵省ニ取リ
充今ノ扶助トナリ為ニーカ故然ニ千八百七十六年八月政府ハ
頓断以テ金禄公債証書発行云々ノ告ヲ公布セリ
此禄制改革ノ見込ヲ以テ政府ハ華士族ノ員数其ニ其ノ高ノ一
覧表ヲ調製セリ依テ今其表中ヨリ摘出スル左ノモノ即チ五ノ
如シ

高	員数
七万円以上ノ者	十六名
五万円ヨリ七万円迄ノ者	八名
三万円ヨリ五万円迄ノ者	十五名
壱万円ヨリ三万円迄ノ者	八十名
五千円ヨリ壱万円迄ノ者	七十四名

壱千円ヨリ五千円迄ノ者　三百九十三名
百円ヨリ壱千円迄ノ者　壱万五千四百八十四名
二十五円ヨリ百円迄ノ者　六万五千百七十四名
二十五円以下ノ者　十二万七千百八十四名
合計　三十一万八千四百二十八名

一家ノ戸主ナルモノナリ而メ千八百七十八名ノ華士族ハ皆ナ華士族ト士族ノ最多ノ人口ニ依テ之レヲ視レバ華士族ノ家族ト其末家等ヲ算入セハ総数百九十四万二百二十三名ニシテ内九十七万二千百二十二名ハ男九十七万五千百名八婦人ナリ

且ツ同時ニ布告ヲ発シ家禄賞典禄給与ノ年限ヲ定メ禄高最モ巨額ナル者ヘハ五ヶ年分ヲ給与スルコトヽシ禄高ノ減スルニ従テ給与ノ年限ヲ増シ最モ小額ノ者ヘハ十四ヶ年分ヲ給スルモノ

セリ該公債証書ノ元金ハ五ヶ年間ヨリ据置キ六ヶ年目ヨリ大蔵省ノ都合ニ因リ之レヲ消却シ都合二十五ヶ年間余ニ分皆消却セラルヽモノナリ尤モ此間ニハ此費目全ク豫算表中ニ跡ヲ絶ツニ至ラン尤モ該債証書ハ書入質其他売買譲渡ヲ禁止ナルモノニシテ利子ハ共元金ニ応ジテ大禄ノモノヽハ五銭小禄ノモノヽハ一銭ヲ給与スルモノナリ

此金禄公債証書発行ノ為メニ最モ不利ヲ生シタル者ハ禄高ノ巨額ナリシモノナリ譬ヘバ年々永代禄高七万円ナリシモノ僅カニ三十五万円ノ高ヲ公債証書ニテ給与セラレ元金ハ三十ヶ年間ニ消却サレ剰サヘ其利子トシテ僅カニ五銭ヲ受取ル而已去レハ准伯禄高ノ四分ノ一即チ一万七千五百円ノ利子ヲ受取ルナリ然ルニ小禄ノ者ハ之レニ反シテ不利ヲ生スルコトサシ

即ケ一ケ年百円取リノ者ハ其旧被高ノ三分ノ二ヲ受取ル姿ニシテ百円以下三十万二千三百五十八人ノ巨数ハ此家禄賞分ニ付キ被失ニ受クルコト一層軽少ナリ

之レカ為メニ大蔵省ニ取ル歳出ノ幾許ヲ減少セレナヲ尋ルニ全省ニ於テハ将サニ拾ト四百万円即ケ其実ハ十万封度ヲ減少スベキ見積ナリレト云ヒリ

太政官

太政官ニハ太政大臣左太臣右太臣并ニ卿各名ノ長官ヲ置務ス

ノ諸官職ナリテ所謂内閣ナルモノニシテ通例一週間ニ一回ツヽ皇帝ノ目前ニ於テ會議ヲ開キ凡國事ニ関スル重大ノ事件ヲ裁決ス

元老院

議官ハ皆ナ政府ヨリ人オヲ選ンデネレヲ命シ敢テ官員ニ充ト

ト云フニアラス其員数ハ二三十名ノ間ヲ出デス議長ハ皇族之レニ任ス

其職務ハ凡ソ政府ニ於テ議決シ新ニ設ケル可キ律法ヲ編製シ及ヒ旧律中改正ヲ要スルモノアレバ更ニ之レヲ製定ス然リト雖モ政府ノ允准ヲ得ザレバ立法上ノコトニ着手スベカラサルモノトス

地方官會議

地方官會議ハ三府三十五縣ノコトニ付テハ四十七枚ト四十八枚トヲ着ルベシヨリ各長官ノ會議スルモノニシテ最然タル議事會ナリ其首トシテ議スル所ノモノハ道路堤防ノコト地租ノコト地方学校ノコト等凡ソ地方ニ関スル事件ヲ討論議決スルニアリ尤モ此地方官會議以来僅カニ一回ノ會議アリタル而已即ケ千八百七十五年間ニ開キタルモノ是ナリ

外務省

外務省ノ費用ハ唯省中官吏ノ俸料ナル而已即チ其官吏ハ卿ト大輔トニシテ卿ハ年俸千四百四十封度大輔ハ年俸九百六十封度ナリ此外諸官員ヲ合シテ百四十名アリ此俸料ハ年々三十封度ヨリ九百六十封度以下ナリ

月本ノ太政大臣ノ俸料ハ年々千九百二十封度ニシテ其他側輔ノ俸料ノ如キハ外務省ト全一ナリ

内務省

内務省ノ費用ハ省中官吏千八名ノ給料ノ外ニ尚数多ノ雑費アリ尤モ此等ノ如キハ別段茲ニ詳細記載スルヲ不用ナリトス

製茶所及ヒ地理局ハ該省ノ所管タリ

大蔵省

大蔵省ノ官吏ハ千三百六十三名ニシテ活版局ハ該省ノ所管タリ将又其各局ノ別ヲ挙ケ五ノ如シ造幣局、租税局、統計局、検査局、国債局、記録局、出納局及ヒ紙幣局是ナリ

陸軍省

陸軍省ノ費用ハ官吏六百九十九名ノ俸料ノ外ニ尚陸軍一切ノ諸掛費アリ但シ兵卒ノ員数并ニ其分営等ハ左ノ文ニ掲載スルヲ以テ茲ニ略ス

兵士ハ徴兵令ニ依テ人民一般ヨリ之ヲ募集シ其軍役ノ年限ハ之レヲ三ケ年ト定ムト雖モ満期ノ後五ケ年間之レヲ後備軍トナシ以テ齢四十歳ニ至ル迄ハ召募ニ応スベキモノトス然ルニ徴ヲ以テ人民ノ望マサルモノト見ヘ去ル二月一日附ヲ以テ徴兵タルヲ免カレンカ為メ殊更ニ故障等ヲ設ケ云々スルニ付テハ其筋係リ官其ニ於テ市橋ノ口之レナキ様注意スベキ旨ヲ布達セリ」

兵士ハ軍務ノ外尚読書習字等ノ教授ヲモ受クルモノタリ且又兵士ノ為メニ商法学校ヲ設立スルノ企アリ

訳者云ノ該表ハ唯鉄砲兵ニ今官ノ位置等ヲ記載セル而已ニテ別ニ段落ヲ設ケス之ヲ陸軍省調製ノ表ヲ以テセレハ大ノモノナルベケレハ之レヲ略ス

船名	
龍驤艦	
ヨーヨー艦	
東艦	
ツバ艦	
春日艦	
日進艦	
モレ艦	
菊ニテイボル号	
ハレヨー艦	
仁慶号	
トヨビン号	
春風号	
冨士山号	
ケンコン号	
大坂丸	
草梁丸	
高雄丸	

衝艦

加州ラッアアメリ国

連カ十四里

操練船

全速力

測量船

全

海軍省

海軍省ハ費用モ同様海軍一切ノ諸費用ヲ以海兵等ノ員数ハ左ノ表ニ就テ着ルベシ

日本軍艦一覧表

船名	指揮官		噸数	砲数	馬力	螺旋ヵ或ハ外車	乗組人	
	水師提督伊東							
龍驤艦	船将	福島	千三百	十	二百八十	螺旋	二百七十五	
ヨーヒヨー艦	副船将	澤野						
東艦	船将	伊東	七百	三	五百	螺旋	百三十五	撞艦
リバ艦	船将	本山	千三十三	十一	二百	螺旋	二百四十五	旧米國アラスカ船
春日艦	副船将	イソウ	千	六	三百	外車	百三十	
日進艦	副船将	伊東	八百	七	二百五十	螺旋	百四十五	
モレ艦	副艦長	笠間	不詳	四	六十	螺旋	六十	
第二テイボル号	副艦長	青木	不詳	四	六十	螺旋	六十五	
ハレヨー艦	副船将	山崎	不詳	四	六十	螺旋	六十五	
仁慶号	副船将	坪井	七百	不詳	千四百	螺旋	百三十	速力十四里
トヨビン号	掌舎官	上田						
春風号		不詳						
富士山号	副船長	松村						操練船
ケンコン号	副船長	濱武						仝
大坂丸	副艦長	高山						測量船
草梁丸	副艦長	松田						仝
高雄丸	副艦長	伊東						

此外三艘英國ニ於テ造船中ナリ且ツ右三艘乗組ノ為メ水夫千人昨今操練中ナリ

官吏其ニ附属ノ者合計三千五百人ナリ

文部省

日本ノ文字ト学問トハ最モ古代支那ト朝鮮トノ両國ヨリ渡来セシモノナリ何トナレハ早クモ紀元三百年ニ支那語ト支那学トヲ日本ニ傳授センガタメ両國ノ学士日本ニ渡航セシコト載セテ日本ノ年暦ニアリ以テ知ルベキナリ

仮令ヒ支那学ノ渡来スル斯ク早シト雖モ當時ノ世タル人智未タ開ケス人即ケ政権将軍ニ帰セシ時ナリシヲ以テ普ク四民ヘ教育ヲ布クノ目的ニアラズシテ僅カニ政務ニ干與スルニ足ルベキ人ヲ教育スル迄ノコトナリキ

是ヲ以テ仮令ヒ将軍并ニ大藩ノ諸大名等大学ヲ設ケ以テ之ヲ維持スト雖モ其設ケタル専ラ士族教育ノ為メニシテ苟モ平民ノ子弟等ハ此門ニ入ルコトヲ許ルサヾリシカ故ニ或ヒハ私学校ト入リ或ハ私学教師ニ就テ教授ヲ受ケタリ斯ノ如ク平民ノ子

第八撰年セラレ官立学校ニモ入ルアタハザリシト魚モ農工商
共大概讀ミ書キ筭術等ノ出来ザリシ者ハ之レナカリシト云フ
維新政府夙ニ茲ニ着ヤリ普ク四民ヘ諸般ノ学科ヲ弘ムルハ国
ノ進歩ヲ助ケ智識ヲ開達セシムルカ為メニ欠クベカラザルハ
急務ナリトシ従来ノ学校ハ宜シク学制ヲ一変シテ普通ノ教則
ヲ践マシメ尚新ニ学校ヲ設立増加シテ以テ普ク四民ノ子弟ニ
入学ヲ許ルスコトセリ
文部省ノ創立タル千八百七十一年ニアリ而メ該省発行ノ最後
ノ報告ハ千八百七十四年ノ分是レナリ今其報告書中ヨリ摘出
スルモノ即チ左ノ如シ
抑教育上ノ便宜ヲ計リ國内ヲ分ッテ七大学区トナシ七大学区
中小学校ノ其数千八百七十四年ニ於テ二万十七所アリタリ
去レバ千八百七十三年中ニ取開キタル校数ヨリ増加セシコト七
千四百五十九ケ所、外國語学校九十一、官立専門学校二ケ所アルタ
リ
扨又此等ノ諸語学校入門ノ生徒ハ総数百七十三万百七十九人
ニシテ内男子百三十一万二千百四十一人女子四十一万八千三
十八人ナリ即チ総人口百ニ付五分一五ノ割合ナリ勿論此割合
ハ些サノモノタリト雖モ僅カ一両年間ニ於テ千八百七十三年
ノ生徒ノ数ヨリ千八百七十四年ニ於テハ生徒ノ数増加セシコ
ト五十六万八千九百六十六人ナレバ日本ハ開化ノ高度ニ達シタ
ル欧洲諸国ト此割合ノ平均スル将ニ近キニアラントス
教育方ノコトハ自ラ此報告書中ノ論外ニ渉ルベキ主旨ナルヲ以
テ此ニ贅セス尤モ諸専門学共総テ外国語ヲ以テシ医学ハ猶逸
話ヲ以テス然レモ医学ヲ除キ其他ノ諸学科共善ク英語ヲ用ユ

ヶ故将来必ラス英語ヲ代用スルニ至ルベキ旨載セテ排歩書中ニアリ

文部省雇ノ外国教師百三名ノ内英人四十五名（内男十七名女二名）ニテ残リ小猶逸人二十二名（内男四十名女五名）米人十九名（内男十四名露国人一名瑞西人一名及ヒ支那人一名ナリ

千八百七十四年中間小学校ノ総費ハ六十三万九千五十五封度ニシテ右ノ内二十一万六千百六十九封度ハ有志ノ寄附金ニ係リ二千九万千七百二十二封度ハ学区ヨリ、六万三百二十封度ハ学校ノ謝金ヨリ出テタルモノナリ此外政府ニテ小学校ヘ六万封度ヲ出セリ政府ハ又全年中大中諸学校ノ為メニ十二万八千六百二十八封度ヲ費シ及ヒ欧洲留学生ノ教育費ノ為メニ巨額ヲ使用セリ

文部省ノ官員百七十名アリ

教部省

教部省ノ官員百八名アリ

工部省

工部省ハ之レヲ七局ニ分ツ即チ鎮山局、鉄道局、電信局、燈台局、製作局、工学局及ヒ営繕局是レナリ其官員八百八十九名アリ

司法省

司法省ノ官員千三百七十名アリ但シ東京ニアル諸裁判所ノ分モ此ノ中ニアリ

国内二十三ヶ所ノ地方裁判所アリ地方裁判所ノ裁判ヲ不服トスル者ハ先ツ東京大坂長崎及ヒ宮城上等裁判所ノ中一ヶ所ヘ起訴スルヲ得尚不服ナレバ東京ニアル大審院ヘ控訴スルヲ得ルモノトス

宮内省

官内省ノ官員二百九十二名アリ

前文ニ依テ之レヲ視ルニ十省ノ内九省（最後発行ノ官員録中海軍省ノ官員ヲ載セス）ニ於テ去ル一月迄六千三十九名ノ官員アリ其給料ハ年々大キハ九百六十封度ヨリ少キハ三十封度ナリ」

畢竟斯ノ如キ数多ノ官員ヲ用ヒタル所以ハ蓋シ維新ノ因ノ生セシメタルモノナリ抑々維新ノ際ニ於ケル内国ノ為メニ戦闘尽力セシ者ニ賞典ヲ給与セズンバアルベカラザル場合ナリシヲ以テ之レ等ヲ官途ニ就カシムルヨリ当時ノ最モ容易ニ行フベキ策タリ

抑々各省其冗員ノ多キハ各人ノ知リシ処ニシテ各省ノ長官モ亦其人員減少ノ機會ヲ而已待居タリシニ辛ヒ一月四日ノ聖詔アルヲ以テ更ニ地租ヲ減シテ二分五厘トシ歳入一八百万円ヲ減少スル由ヲ達セラレタルニ付キ愈々此策ヲ行ハザルベカラザルニ至レリ且又当時ニ八百万円丈ノ歳出ヲ省減スベキ由ヲ命セラレタリシ故諸官省ノ官員一円廃官トナリ僅カニ一部分丈後職セシ而已モ官員減省ノ数幾許アリシヤ明スルヲ得ズ況ヤ之レ為メ頗フル数多ナリシヤ疑ヒ容レズ

開拓使

開拓使ハ千八百七十一年ノ創立ニ係ハルモノニシテ第一蝦夷島ノ物産ヲ開発セシメ第二外国ノ産物畜類農具及ヒ菓樹等ヲ着ノ国内ニ播殖セシメ以テ更ニ農業ヲ奨励セシメンガ為メナリ

抑々千八百六十二年以前ニアッテハ蝦夷島ハ殆ンド日本人ノ知ラガリシ所ノモノヽ如シ尤モ日本人ハ実ニ今ヲ去ル六百二十年以前ヨリシテ間々該島ノ鑛山開墾ノ業ニ従事セシコト相違ナシ去リナガラ該島諸般ノ物産等ニ付テハ更ニ一年モ知ラバ

千八百六十二年ニ於テ該島測量ノ為メ外国人一名（測量方兼地質学者）将軍ノ雇入ルヽ所トナリ之レニ着手セリ然レドモ千八百七十一年ニ至ルマデハ其外一事モ着手セザリシモノト見ユ然ルニ同年ヨリシテ再ヒ測量ニ取掛リ千八百七十五年ノ末ニ引続キ従事セリ

同使出役ノ測量者報告書ニ依レハ蝦夷島ハ三万五千七百三十九方里ニシテ住民ハ甚タ乏シク其大概ハ「アイノ」人千八百七十二年ノ人口調ニハ総人口十二万三千六百六十八人ニシテ内男六万三十三千一人女六万六百三十七人トアリ但シ「アイノ」トハ毛ノ人ト云義ニシテ多分日本人ノ種ナリトシ又其身体強ク且ツ勇ニシテ勉強ノ心順良温順常ニ漁猟ヲ事トシテ活路ヲ立ツトイヘリ

該島ニハ石炭、銀、硫黄、黄金及ヒ其他ノ鉱物アリ若シ其開墾方等ニシキヲ得ルキハ石炭ト銀ト硫黄トヲ以テ巨額ノ歳入ヲ生ズルニ至ラン然レトモ最モ豊饒ナル金山ハ既ニ堀尽クセシモノヽ如シ

尚此等鉱物ノ外ニ該島ニハ石脳油ノ泉アリ最モ多ノ樹木生ズルノ大山林アリ殊ニ小麦、大麦及ヒ麻ヲ生スルノ膏腴地アリ又河及近海ニ過ル（ママ）鯨、青魚（ママ）、鰯、鰊等其他海水獺（ママ）毛満ヲの（ママ）毛皮ヲ出ス

八日本ヨリモ一層寒冷ニシテ冬間ハ最モ寒シ

開拓使ハ蝦夷ノ首府ヲ札幌ニ定メタリ柳ノ其位置タル甚タ宜シキヲ得タモノヽ如シ此地ヨリ該湾ニ至ル道程九十英里ノ間更ニ車道ヲ開キ該湾ニハ最良ノ碇泊場アリ又此外尚該島ニ九百英里程ノ道路ヲ取開キタル処アリ○亦開拓使ハ日本ニ養樹園其外此類ノ園ヲ設ケ以テ菓木（菓）、菓樹等ノ外国産ノ物ヲ蝦夷地ニ送ル前此園内ニ於テ風土ニ馴レシムルナリ（又ハ園内

地租改正局ハ地租改正ノ為メ千八百七十三年之レヲ創立シ
三府三十五縣
府ハ東京、京都、大坂ノ三都ニシテ縣ハ皆京、京都、大坂ノ三都ニ置キシモノ是レナリ
直ケ二國内所々ニ置キシモノ是レナリ
元来六十八縣アリシガ千八百七十六年ノ初メ其数ヲ減シテ三十五縣トセリ尚一層減少シテ二十三縣ト為スヤノ風説アリ
各府縣共皇帝ヨリ命セラレタル縣令ト雖之レヲ管轄ス
巡査
國内巡査ノ総数一万八千四百七十三人ニシテ内六千人ハ東京
巡査ニ係ハリ八百九十五人ハ京都巡査ニシテ六百六人ハ大坂
ヨリ残リ一万九百七十二人ハ三十五縣ニ配布ノ分ニ係ハル○東
京巡査ハ他所ヨリ其数多シト何トナレバ東京ハ中心政府ノアル
處ナルヲ以テ地方ニテ巡査ヲ要求スルコトナレバ何ヒヲ以テ大蔵省

十水ヲ農学并ニ欧洲農具ノ用方等ヲ傳習ス
然レドモ彼両島ノ日本ノ為メニ貴重ナル所有物トナリ即チ其歳
入ヲ以テ開拓使ノ歳出ヲ償フニ足ルマデハ蓋シ数年ヲ経過セ
スンバアルベカラス
其然ル所以ノモノハ他ナシ日本ノ住民ハ該島ニ移住スルヲ
甚タ嫌尽シ加之該島測量者ノ陳述スル所ニ拠レバ開拓使ハ未
タ曽テ地租期限等ノコヲ寛ニシテ人民ヲ移住セシメント企テ
ザリシヲ以テナリ
漠業ハ若シ適宜ノ制度ヲ設ケタランニハ該島ニ取リ富國ノ一
源トナルヤ疑ヒナシト雖モ目今ニテハ重モニ日本住ノ人民之
レヲ営ミ殖民ノ以業ニ就クヲ妨ケ又其次類ハ支那ト日本ノ市
場ヲ除クノ外何地ノ市場ヘモ適セザル乾シ肴ナリ
地租改正局

至極容易ニ出張セシメ得ルヲ以テナリ

神心政府先ニ府縣廳持ノ伊勢神宮及ヒ其他ノ神宮

伊勢ハ東京ノ南西ニ方リ凡ソ二百英里ヲ距ル一国ニシテ日本人カ此地ヲ尊重視スル恰モ回々教徒カ亜拉比亜ノ一都「メカ」ヲ敬視スルカ如シ而メ諸病諸雑除ケノ符咒ヲ購求センカ為メニ年々伊勢ニ輻集スル巡礼者数千人ナリ但シ此符咒ハ神官之レヲ売リ其他ノ神宮ニテ施与スルモノヨリモ一層霊験アルモノトス

皇居再建

皇居ハ東京ニアリシカ千八百七十四年旧ニ焼滅セシヲ以テ陛下ノ為メニ皇居再建センコトニ決セリ其ノ豫算高二十万封度ナリ但シ建築五ヶ年余ヲ費スト云フ

尚此外歳出費等ハ載セテ此報告書ノ第三篇ニアリ宜シクソレニ就テ着ルベシ

第二篇国債ノ事

古今ニ亙リ万国ニ照シテ熟之レヲ推ルニ旧政府ヲ倒滅シ更ニ新政府ヲ置キ以テ政度ヲ改革スルニ於テハ必ラス一種ノ通過スルヲ免カレサルカ如シ即チ或ヒハ国債ヲ創製シ或ヒハ之レヲ増加スルヲ常ナリ

日本モ思ヒノ外些少ノ国債アリト雖モ又此規矩ヲ免カレサリシモノナリ

往時封建制度ノ世ニ於テヤ将軍初メ大名其多クハ諸種ノ紙幣ヲ発行シ以テ其各藩ノ領分内ニ通行セシメタリ抑モ該紙幣ハ理ヲ以テ之レヲ推セバ交換スベキモノナレモ実地上其発行人ニ於テ正金ト引換シコトハ至テ稀レナリキ

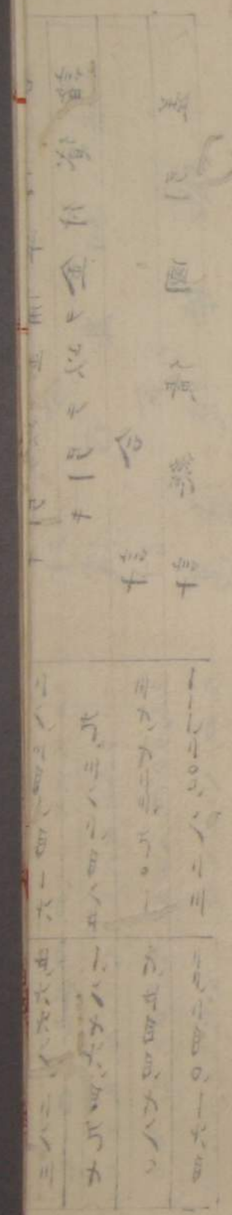
維新政府起ルヤ立刻ニ此等諸紙幣ノ流通ヲ停止シ更ニ等通

新紙幣ヲ発行シテ多少各藩ノ紙幣旧流通高ト其需用高トヲ慮
シテ夫々各藩ニ引渡シタリ又曩日将軍並ニ大名共政権ヲ挫リ
シ間借受ケタル負債ヲモ政府ニ於テ弁償方ヲ引受ケルコトナ
リタリ

然ラバ此等ノ負債ト将軍並ニ大名共発行ノ紙幣トガ千八百六
十八年マデノ日本ノ国債ヲナシタルトト云フベシ試ニ着ヨ千八
百六十八年ノ国債ノ総額ト現今ノ国債ノ高トノ間ニ生ズル差
額ハ多クハ是迄九ケ年間日本人ガ其政府ノ改革並ニ国変ノ為
メニ拂フタル金額ヲ示スモノナルベシ

右ノ表ハ過ル四ケ年半ノ豫算表ヲ以テ出版セラレタル国債一
覧表ナリ尤モ特ニ千八百七十三年乃至一八百七十四年並ニ千
八百七十五年上半期ノ分ヲ掲載スル所以ノモノハ他ナシ右ハ
豫算表附録ノ分ヨリモ一層明了ナルヲ以テナリ蓋シ最前ノ仮

ノ日ニ於テハ未ダ會計上ノ一ニ付キ未熟ヲ免カレザリシニ



千八百七十四年國債一覽表

	円	封度
有利息内債	一三,七五五,八七三	二,七五一,一七六
無利息内債	一二,七一八,四七八	二,五四三,六九五
合計	二六,四七四,三五一	五,二九四,八七一
右高ノ内本年并ニ昨年分ノ年賦拂ヲ引キ	七五八,七〇〇	一五一,七四〇
殘高	二五,七一五,六五一	五,一四三,一三一
外債	五,五〇九,〇五〇	一,一〇一,八一〇
合計	三一,二二四,七〇一	六,二四四,九四一

千八百七十四年國債一覽表

	円	封度
四銖利附内債	一一,二三七,七五〇	二,二四七,五五〇
六銖利附内債	一,五八〇,二〇〇	三一六,〇四〇
無利足内債	九,二三二,一五三	一,八四六,五一〇
合計	二一,〇五九,五〇三	四,四一〇,一〇〇
千八百七十四年十二月三十一日迄ニ拂フベキ高	二四九,二三二	四九,八四四
千八百七十四年十二月三十日殘高	二一,八〇一,二八〇	四,三六〇,二五六
九銖利付外債	三,八五九,五九二	七七一,九一八
七銖利付外債	一一,七一一,〇〇〇	二,三四二,四〇〇
無利息外債	一,五一五,〇〇〇	三〇三,〇〇〇
合計	一七,〇八六,五九二	三,四一七,三一八
千八百七十四年十二月三十一日迄ニ拂フベキ高	一,〇〇三,〇〇〇	四〇〇,六〇〇
千八百七十四年十二月三十一日殘高	一五,〇八三,五九二	三,〇一六,七一八

續キ

	円	封度
内債	一、八〇一、二八〇	四、三六〇、二五六
外債	一五、〇八三、五九二	三、〇一六、七一八
合計	三六、八八四、八七二	七、三七六、九七四
千八百七十四年十二月三十一日ニ於ケル準備金ヲ以テ減シ	二、〇二九、八四一	四、二〇五、九六八
差引国債総計	一五、八五五、〇三一	三、一七一、〇〇六

千八百七十五年一月一日ヨリ六月三十日ニ至ル国債一覧表

	円	封度
四銖利付内債	一二、〇四八、七五〇	二、四〇九、七五〇
六銖利付内債	二、一一三、五五〇	四四二、七一〇
八銖利付内債	五、八六八、七二五	一、一七三、七四五
合計	二〇、一三二、〇二五	四、〇二六、二〇九
無利息内債	一〇、〇九二、五三二	二、〇一八、五〇六
合計	三〇、二二五、五五七	六、〇四四、七一一
右半ヶ年間拂フベキ高	六〇六、八三三	一二一、三六六
千八百七十五年一月一日ノ残高	二九、六一六、七二四	五、九二三、三四五
九銖利付外債	三、四六一、一五二	六九八、二三〇
七銖利付外債	一一、七一一、八〇〇	二、三四二、四〇〇
合計	一五、二〇三、一五二	三、〇四〇、六三〇
右半ヶ年間拂フベキ高	七二二、二四〇	一四四、四四八
千八百七十五年一月一日ノ残高	一四、四八〇、九一二	二、八九六、一八二
内債	二九、六一六、七二四	五、九二三、三四五
外外	一四、四八〇、九一二	二、八九六、一八二
合計	四四、〇九七、六三六	八、八一九、五二七
旧紙幣	三、三五七、一五三	六、四七二、四三〇
真拂券ノ状	一、七二二、五〇八	三四四、五〇二
藩并ニ縣券状	四、六五四、六一六	九三〇、九二三

續　キ

	円	封度
フランクフオルト製造新紙幣	五七二〇七、一七四	一、四四一、四三五
合計	七五、九四一、四五一	一九、一八八、二九〇
紙幣國債總計	一四〇、〇三九、〇八七	二八、〇〇七、八一七
右ノ内千八百七十五年ニ於ケル準備金引キ	二二、〇七四、八六五	四、四一四、九七三
差引國債總計	一一七、九六四、二二二	二三、五九二、八四四

千八百七十五年七月一日ヨリ千八百七十六年六月三十日ニ至ル国債千八百七十五年七月一日ニ於ケル高

	円	封度
四鉄利付内債	一二、〇四一、五六四	二、四〇八、三一三
六鉄利付内債	二、二三八、五五〇	四四七、七一〇
八鉄利付内債	八、六八二、九五〇	一、七三七、三九〇
合計	二二、九六七、〇六四	四、五九、四一三
無利息内債	一〇、〇三七、七八五	二、〇〇七、五五七
合計	三三、〇〇四、八四九	六、六〇〇、九七〇
紙幣流通高	九四、八〇二、八一九	一八、九六〇、七六四
内債總計	一二七、八〇八、六六八	二五、五六一、七二四
九鉄利付外債	三、〇〇三、一五二	六〇〇、六三〇
七鉄利付外債	一一、四七七、七六〇	二、二九五、五九二
外債總計	一四、四八〇、九一二	二、八九六、一八二
内外債總計	一四二、二八九、五八〇	二八、四五六、九一六
右ノ内準備金ヲ以テ引キ	二四、四一六、二五七	四、八八三、二五一
同ク府縣ニアル準備金ヲ以テ引キ	五、三六、〇七五	一、〇七、二一五
諸貸付金ヲ以テ引キ(人民就産ノ為メ及ヒ窮民救助ノ為メニ貸出シタルモノ)	一二、五九四、八八九	二、五一八、九七八
総計	三七、五四七、二二一	七、五〇九、四四四
差引國債總計	一〇四、七四二、三五九	二〇、九四八、四七二

千八百七十六年ヨリ七十七年ニ至ル國債
千八百七十六年七月一日ニ於ケル高

	円	割合
四分利付内債	一、八〇七、五〇	二、三六〇、三五〇
六分利付内債	二、二三八、五五〇	四四七、七一〇
八分利付内債	一六、六四一、八五〇	三、三二八、三七〇
合計	三〇、六八二、一五〇	六、一三六、四三〇
無利息内債	一〇、〇三二、七五〇	二、〇〇六、五四四
合計	四〇、七一四、八七〇	八、一四二、九七四
紙幣流通高	九四、〇一四、七三一	一八、八〇二、九四六
内債総計	一三四、七六九、六〇一	二六、九五三、九二〇
九分利付外債	一、九二八、〇〇〇	五八五、六〇〇
七分利付外債	一、一二七、一二三	二、二四五、四二四
外債総計	一四、一五五、一二三	二、八三一、〇二四
内外債総計	一四八、九二四、七二四	二九、七八四、九四四
右ノ内準備金ヲ以テ引キ	二八、三四一、四一六	五、六六八、二八三
諸貸付金ヲ以テ引キ	九、三八二、四八五	一、八七六、四九七
合計	三七、七二三、九〇一	七、五四四、七八〇
差引國債総計	一一二、〇〇、八二三	二二、二四〇、一六四

第一表ニ就テハ國債ニ付スル利子ノ割合並紙幣ノ流通高ヲ全ク記載セザルヿト表中掲クル所ノ外債ハ東京ヨリ横濱ニ至ル鐵道築造ノ為メニ千八百七十一年ニ於テ倫敦ニテ募リタルモノナルヿヲ視ルヲ以テ緊要トスル而已

千八百七十四年ノ表ハ一層明細ナリ其表中ニハ諸公債ノ利子ノ割合ヲ記載シ且ツ衆庶ヲシテ準備金ナルモノ存在スルヿト其金額トヲ知ラシム○表中外國債ノ部ニ貳口ノ増加アリ即ラ貳百三十四万貳千百封度ト三十万三千封度トノ外債是レナリ抑右貳百三十四万貳千八百封度ノ分ハ華士族ノ家禄並賞典祿共奉還セシムル為メ千八百七十三年募リタル公債ニシテ三十万三千封度ハ下関償金ノ年賦拂ヒ最後ノ分ナリ仮令右下関償金ノ分ハ借受ケタルモノニハアラスト雖モ準備金ノ内ヲ以テ仕拂ヒタルモノトシテ載セテ千八百七十四年間ノ歳出表ニア

り然ルニ之レヲ外債ノ部ニ加入セレハ相當ラストス

第三表即チ千八百七十五年上半期ノ分ニハ紙幣ノ高記載アリ然レトモノ表中誤謬ノアル由ト又概レテ右ノ三表共錯誤ノアル由ヲ大藏大輔ヨリ教示セラレタルユヘ此等ハ捨置キ直チニ千八百七十五年ニ至ル豫算表ニ附添フタル國債表ニ就テ論スル所アルベシ同大輔云ク該表ハ千八百七十五年七月一日ニ於ケル國債ノ精算ヲ示スモノナリト該表ニ據テ之レヲ視レバ内債ノ四口アルコヲ知ルベシ

先ッ第一ハ四銖利付ノ分ニシテ維新以降廢藩ニ至ル迄ノ間ニ千八百六十八年ヨリ七十一年迄ニシテ諸大名共勅命ヲ奉シテ其藩地ヲ支配セシ間大名共ノ取結ヒタル負債ニ係ハルモノナリ○此等ノ負債弁償方ヲ皇帝陛下ノ政府ニテ引受ケタルハ千八百七十一年ニシテ此時ヲ以テ全國ノ總轄總テ中心政府ノ権

内ニ帰セリ

第二ハ六銖利付ノ分ニシテ右ハ兼テ発行ノ紙幣流通高ヲ限制シ以テ其價格ノ下落ヲ防セカンカ為メニ千八百七十三年ヨリ取初メ尚引續施行スル處ノ理財運轉ノ結果ナリ抑モ其理財運轉ト云ハ五十円以上所持ノ者ヘハ六銖利付ノ公債証書タル毎年若干額抽籤ノ方レメタルヿ是レナリ尤モ此公債証書ヲ購求セシヿヲ以テ金貨ヲ以テ佛渡スモノトス

第三ハ八銖利付ノ公債ニシテ華士族ノ家祿ヲ以テ華士族ノ家祿ニ賞典祿ヲ奉還セシメンカ為メニ千八百七十三年ニ起レタルモノナリ當時政府カ凡華士族共永世祿ヲ奉還セシモノヘハ六ヶ年分ノ祿高相當ノ金額ヲ全額及ヒ終身祿ヲ奉還セシ者ヘハ四ヶ年分ノ祿高相當ノ金額ヲ半額ハ正金半額ハ年利八銖利付ノ公債証書ヲ付與セシヿヲ記憶スルナラン此一口ハ全ク家祿奉還金ノ外他ニ遣拂

ハザルモノナリ

第四ハ無利息ノ公債ニシテ右ハ維新前五十年間ニ諸大名共人民ヨリ借受タル負債ニ係ル然ルニ皇帝陛下ノ政府思ヒラク此負債弁償ノ責任ヲ政府ニ引受クルハ理ノ當然ナリトセリ是ヲ以テ此償却ノ期限ハ借受ケノ年月ト合對セスンバアルベカラザルヲニ取定マリ毎年五十分ノ一ツヽ年賦拂ニナルモノナリ外債ノ部ハ既ニ弁論セシヲ以テ是レヨリ紙幣ノ部ニ論及セン内國債ノヲニ関スル以上ノ條件須ラク大藏大輔ノ教示スル處ニ係ル又同大輔ノ云ク皇帝陛下ノ政府ニ於テ責任ニ立タル將軍并ニ大名発行ノ紙幣ハ四千九百万円即チ此英貨九百八十萬封度ナリシト而シテ前文既ニ論述セシカ如ク此紙幣ハ千八百六十八年ニ於テ政府発行ノ紙幣同高ヲ以テ引換トナリタリ尚又続ヒテ千八百六十八年ヨリ千八百七十年迄ニ同紙幣凡ソ四千八百万円ヲ発行セリ抑此紙幣ハ現今ニテハ不換紙幣ナリ

乍モ前條論述セシ如ク六銭利付ノ公債証書発行ノ如キ方法ヲ以テセザレバ」ト雖モ政府ハ実地之レヲ交換スルヲ得ベキ状況ニ至レバ直様正金ヲ以テ交換スルノ意顕然タルカ故ニ余ハ即チ之レヲ國債ノ一部分ト思考スルナリ

現今ニ至ルマデ皇帝陛下ノ政府ニテ発行シタル紙幣ノ總額ハ九千七百万円（此英貨千九百四十萬封度）ニシテ千八百七十五年七月一日ニ於ケル流通高ハ九千四百八十萬三千八百十九円（此英貨千八百九十六万七百六十四封度）ナリ

前条論述スル所ニ據テ之レヲ視レバ封建時代ヨリ維新政府ニ引継キタル國債ハ即チ左ノ如シ

第一　貳百萬七千五百五拾七封度

但シ右ハ無利息内債ニシテ千八百七十五年七月一日ニ於

ケル金額ナリ

第二　　九百八十萬円

但シ右ハ將軍ヲ始メ大名ノ発行シタル紙幣ノ高ナリ
總計千百八十萬七千五百五十七封度ニ
叉維新以来ノ国債即チ左ノ如シ

第一　　貳百四十萬八千三百十三封度

但シ右ハ四銖利付ノ内債ニシテ大名等皇帝陛下ノ為メニ
其舊地ヲ管轄セシ時募リタルモノニシテ千八百七十五年
七月一日ニ於ケル高ナリ

第二　　四拾四萬七千七百拾封度

但シ右ハ六銖利付ノ内債ニシテ流通紙幣ノ高ヲ限制シ以
テ其價格ノ下落ヲ防セガンガ為メニ五十円以上所持ノ者
ヨシテ購買セシメタルモノナリ

第三　　百七十三萬七千三百九十封度

但シ右ハ八銖利付ノ内債ニシテ千八百七十五年七月一日
迄家禄賞典禄共奉還ノ者ヘ給与セシ高ナリ

第四　　九百十六萬七百六十四封度

但シ右ハ千八百七十五年七月一日流通紙幣高千八百九十
六萬七百六十四封度ノ内兼テ將軍ヲ始メ大名ヨリ政府ニ引
継キタル紙幣九百八十万封度ヲ減シタルモノナリ

第五　　貳百八十九萬六千百八十二封度

但シ右ハ鐵道築造ニ挙士族ノ家禄賞典禄奉還給与金ノ
為メニ募リタル外債ニシテ千八百七十五年七月一日ニ於
ケル高ナリ尤モ右高ノ中六十万六百三十封度ハ鐵道築造
ノタメニシテ残高二百二十九萬五千五百五十二封度ハ家
禄ニ賞典禄奉還給与金ノ為メナリ

合計　千六百六十五萬三百五十九封度

此總額ニ付テハ一ニノ注目スベキモノアリ他ナシ第一ニハ第三款ニ第五款ノ家祿賞典祿奉還給与金ノ如キハ自償ノ公債ナルモノナリ何トナレバ此公債ニ拂ニタル利子ハ家祿給与高ノ減少ヲ以テ償フカ故ナリ第二ニハ既ニ政府ニタル準備金七百五十萬九千四百四封度ヲ以テ減スルヤハ總額九百十四万九百十五封度トナルヿ是レナリ是ヲ以テ維新政府ニ於テ募リタル國債ノ実額ハ之レヲ英貨ニ引直シテ九百二十五萬封度以下ニ止マルモノヽ如シ熟々維新以来日本ノ諸変革即チ全國ノ治制改革ノヿ海陸軍ノ設立ノヿ、普通ノ税額取定ノヿ、貳千種ヨリ少ナカラザル小税廃止ノヿ、鐵道并ニ電信築造ノヿ燈臺并ニ駅遞号設立ノヿ新紙幣発行ノヿ、人民教育普及ノヿ、民刑両事ノ新律設定ノヿヲ考フレハ此九百貳十五万封度ノ金額ハ此等ノ結果ニ對シ決シテ不権衡ノモノト見ヘナサス

千八百七十五年七月一日ニ於ケル國債ノ金額ハ二千八百四十五萬七千九百十六封度ナリ然ルニ千八百七十六年ヨリ千八百七十七年ニ至ル豫算表ニ付済シタル千八百七十六年七月一日ニ於ケル國債ノ総額ヲ示ス所ノ最後ノ表ニ擾レバ國債ノ高増加シテ貳千九百七十八萬四千九百四十四封度ニナリタリ然リ而シテ其増加アリタル條款ハ鉄利付ノ内國債ト九鉄利付ノ外國債ナリ尤モ右内國債ノヿニ付テハ大蔵ノ大輔云々ノ此増加ヲ生シタルハ全ク千八百七十三年ノ家祿云々ノ布達ニ基キ之レヲ奉還セシ者ヘ給与セシカ為メナリト又右外國債ノ増加ハ(同年間償却セシ高丈此外國債ヲ減スル故事実増加セシニハアラスシテ唯外見ノ三増殖セシナリ)此外債ヲ募リタル以来

政府ニ於テ買入レ従前ノ表ニ掲載セサリシ公債証書少額ヲ今
度此表中ニ加ヘタルニ因ルト
又準備金ニモ僅少ノ増加アリ右ハ回大輔ヨリ閣ク如ク即チ
左ニ示スカ如シ

金貨　四百萬封度

政府発行ノ紙幣六百六十万封度

貸付金　百九十万封度

年々國債ノ元利償却高即チ左ノ如シ

内債

従千八百七十五年至七十六年	同
利子　三十七万八千八百四十八封度	利子三十八萬七百三十三封度
元金　十二万四千三百八十八封度	元金三十六万六千六百三十封度
共計　五十万三千二百三十六封度	共計七十四萬七千三百六十三封度

外債

従千八百七十五年至七十六年	同
利子　二十一萬八千百六十七封度	利子二十萬千六百八十九封度
元金　十四萬七千七百二十七封度	元金十五萬千二百三十六封度
共計　三十六万五千八百九十四封度	共計三十六万二千九百二十五封度
内外債共計八十六万九千百三十封度	内外債共計百十二万二百八十八封度

是ニ依テ之レヲ視レバ従千八百七十六年至七十七年ノ間ニ貳
十四萬千百五十八封度ノ増額アリ右ハ全ク八銖利付ノ内債ヲ
増加セシニ因ルモノナリ

熟ク千八百七十五年至七十六年従千八百七十六年至七十七年
両年間ノ歳出ノ平均ト同年間ニ於ケル國債元利償却高ノ平均
トヲ観察セバ國債之利償却高ハ歳出ノ八分以下タルヿ判然ナ
ラン

外債償却高ハ年々之レカ為メニ拂出シタル金額ニ應シテ斷ヘス減少スヘシ即チ九銖旧公債ハ五十年ヲ以テ皆濟トナリ七銖新債ハ八十八百九十五年ヲ以テ終ルベキナリ

第三篇一般ノ狀況

左ノ表ハ從千八百七十五年及ヒ從千八百七十六年至七十七年両年間ノ豫算ヲ比較セレモノニシテ右ハ去一月ニ於テ從千八百七十六年至七十七年豫算表ト共ニ出版ノ分ニ係ル當時大藏卿ノ申述スル處ニ云ク前年ノ豫算表ノ組立タル完全タラザリシカ故ニ尚前年ニ遡リテ比較ヲ取ラント欲スルモ能ハズ故ニ全國會計ノ景況如何ニ付テハ須ラク此表中載スル所ノモノニ據ラズンバアルベカラス特ニ歳出入ノ決算表ヲ出版スル迄ハ此表ニ據ラザレハ會計ノ景況將来如何ヲ知ルニ由ナキナリト

左ノ表ハ従千八百七十五年至七十六年及ヒ従千八百七十五年至七十六年両年間ノ豫算ヲ比較セレモノニシテ右ハ去一月ニ於テ従千八百七十六年至七十七年豫算表ト共ニ出版ノ分ニ係ル當時ヲ藏卿ノ申述スル處ニ云ク前年ノ豫算表ノ組立タル完全タラザリシカ故ニ尚前年ニ遡リテ比較ヲ取ラント欲スルモ能ハズ故ニ全國會計ノ景況如何ニ付テハ須ラク此表中載入ル所ノモノニ據ラズンバアルベカラス特ニ歳出入ノ決算表ヲ出版スル迄ハ此表ニ據ラザレハ會計ノ景況將来如何ヲ知ルニ由ナキナリト

千八百七十五年ヨリ七十六年ニ至ル豫算比較表

歳入之部

諸海関税及ヒ其ノ他	千八百七十六年	千八百七十五年ヨリ七十六年ニ至ル	増	減
	封度	封度	封度	封度
地所税	三四、八九六、一九三	三、五四〇、一		九八九、八四四
印紙税	二、〇九三、一九九	二、〇九七、三四九		四、一五〇
家禄税	一、〇九五、二二一	一、二一八		一二三、七九九
北海道物産税	八七、四九七	七四、一一八	一三、三七九	
硫黄税	一四、〇九一	一五、八四五		一、六五三
醸造酒税	三三、六一六、四五七	一五、一五七		
火薬製造掌税	二〇、〇〇〇	一〇、七九八、九八九	九、二〇一	
印紙税	一〇、六九八、四〇〇	一〇、三六六、一六、五七七	三三二、八二三	
郵便税	一〇、〇〇〇	一〇、三〇、五七七	一、六五三	
其他ノ印紙税	一〇、八三一	一〇、四七一	九、五六六	
硫黄税	九六、五八一	一六、〇八五、三四五		
石炭税	一〇、九六、六三一	一〇、三六、三四五	一、六五三	
鉄道税	一三、八五九、四〇〇	三、九〇		
屯倉税	三〇、四二八、一四二	九四〇、〇五八、一四二		
製造煙草税	三、四〇三、五七二	二、四〇三、五七二		
造幣局	一、三五、〇四八	一、三五、〇四八		
官有地売下代金	一九、一四、一六〇	一九、三五、四〇八		一、三九二
官林	二、九七、四〇三	二、九七、四〇三		
雑入（但シ租税ニアラス）	三、〇七、九四〇	二、九七、四〇三	一〇五、五三七	
償金返済	二、〇五、三六九	二、〇五、三六九		
総計	六、五四五、一八五、三七七	六、〇七、五四五、一八五	三四三、六三二	

歲出之部

	千八百七十五年 到七十六年二比	千八百七十六年 到七十七年二至	增	減
	封度	封度	封度	封度
國債償却	八六九,一二一	一一一,二八九	二四一,一五八	
皇族遺料並奉	一四五,五〇〇	一六五,五〇〇	二〇,〇〇〇	
家祿	三,五六一,〇七三	三,五四一,〇七一	二	一九九六八
太政官	八〇,〇〇〇	九八,八〇〇	一八,八〇〇	
元老院	四〇,〇〇〇	四一,四〇〇	一,四〇〇	
地方官會議	六,〇〇〇	六,〇〇〇		
外務省	三四,〇〇〇	三七,一二〇	三,一二〇	
內務省	四六〇,〇〇〇	七三九,九六三	二七九,九六二	
大藏省	二二〇,九二〇	三五九,七二〇	三八,八〇〇	
陸軍省	一,三九〇,〇〇〇	一,四五〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	
海軍省	五四〇,〇〇〇	七〇九,九四〇	一六九,九四〇	
文部省	三四〇,〇〇〇	三四〇,九六〇	九六〇	
教部省	一四,〇〇〇	一四,六〇〇	六〇〇	
工部省	九五〇,〇〇〇	九八〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	
司法省	二五〇,〇〇〇	二八四,一〇〇	三四,一〇〇	
宮內省	四四,二〇〇	六三,二〇〇	一八,七〇〇	
開拓使	三五九,九四三	三八一,一三二	二一,一八八	
地租改正局	九,六〇〇	九四,二〇〇	八四,六〇〇	
三府	一一〇,七七二	九〇,五〇四		二〇,二六七
三十五縣	七四九,二七八	七四一,九七六		七,二八二
警視廳	二〇〇,〇〇〇	二三一,〇〇〇	三九,〇〇〇	
全國巡查	一二〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	
神道拜所	四四,〇〇〇	四四,〇〇〇		
府縣修繕	二七四,〇〇〇	三二七,八〇〇	五三,八〇〇	
公使館并二領事館	一〇三,〇〇〇	一〇九,六六〇	六,六六〇	
雜費	一,三八四,〇三四	一一一,八一〇		一,二七三,二二四
貸付金	三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇		二〇〇,〇〇〇
臨時費	一,〇〇〇,〇〇〇	二六六,〇〇〇		七三四,〇〇〇
總計	一三,六九九,七〇一	一三,五九八,七九九		一〇〇,九三二

此表ニ據レバ從千八百七十六年至七十七年會計間ニ於ケル歳入ノ減高ハ總計百十一萬八千五百二十五封度ニシテ同年間歳出ノ減高ハ總計百十万九百三十一封度ナリ

歳入ノ減高ヲ生シタル重モナル條款即チ左ノ如シ

第一地租ノ減少ナリ右ハ既ニ前文ニ記載シタル如ク更ニ賦課法ヲ改定シ地價三分ノ一ニ減シタルニ因ルナリ

尚地租減シテ二分五厘トナリタレモ右ハ次キノ會計年度ノ豫算表出版ニ至ルマデハ明亮ナラザルベシ何トナレバ從千八百七十六年至七十七年度ノ地租ハ大半既ニ去一月四日ノ堅詔布達以前ニ収入セシヲ以テナリ

少スヤシト

第二祿秩ノ減少ナリ右ハ家祿其外ヲ奉還セシニ因ルナリ

第三北海道歳入ノ減少ナリ

第四雜入ノ減少ナリ右ハ官有品販賣高ニ償付金辺濟高ノ減
少ニ因ルナリ

従千八百七十六年至七十七年會計年間ニ於テ著ルシキ増額ノ
生スル處ノモノハ釀造酒及ヒ煙草稅ノ増加ナリ尚又郵便鐵道
電信造幣礦山及ヒ海関稅モ増加アリ

熟惟ミルニ海関稅ハ千八百七十三年ノ収入稅ヲ以テ尓後ノ分
ニ超過ヘトス即チ千八百七十三年以来ノ収入左ノ如シ

千八百七十三年　三十六萬四千七百八十二封度
千八百七十四年　三十四萬三千三百八十三封度
千八百七十五年　三十四萬八千九百六十八封度
千八百七十六年　三十五萬二千五百九封度

是レニ依テ之レヲ視レバ日本ノ外國貿易上ニ於テ僅少ノ減少
アリタルヲ覺ユ

左ノ表ハ兼テ英國皇帝陛下ノ領事ヨリ差出シタル貿易報告書
中ヨリ抜萃シタルモノニシテ即チ此ノ(減少)多寡ヲ示スモノナリ

	輸入	輸出	合計
千八百七十三年	五百四十八万八千二百封度	四百二万三千百二十七封度	九百五十万千二封度
千八百七十四年	四百七十四万四千百二十六封度	四百万三千百二十三封度	八百七十四万五千五封度
千八百七十五年	五百七十九万三千四百十三封度	三百六十七万二千九百七十八封度	九百四十六万六千三百九十一封度(税)

熟日本形状ヲ観察スルニ日本人ハ外國條約中従則ヲ改正セ
シニ付テハ衆皆望ミヲ之レ属スト判然タリ日本人ハ此税則
ヲ有名無実ノモノナリト弁論ス何トナレバ諸般ノ物品其條約
通リ五分ノ税ヲ拂ハザルヲ以テナリト余ヲ以テ之レヲ視ルニ
横濱通商會議所ノ説ニテハ當ニ五分税ヲ拂フ而已ナラス実地
上諸物品共七分ノ多キヲ拂フトニフ蓋シ未タ嘗テ此税則ノ履
行如何ニ付公平ノ査明ヲ遂ケザルモノヽ如シ

歳出ノ減高ヲ生シタル條款即チ左ノ如シ

第一款　禄賞典禄ノ減少ナリ右ハ家禄等奉還ノ次第漸ク別チ
第二廃縣費ノ減少ナリ右ハ裁判事務ト行政事務トヲ別チ且今裁判事務ヲ司ル者管轄ノ広狭ニ
第三雑費ノ減少ナリ従千八百七十五年至七十六年豫算表中雑
費ノ部ニ算入セシ百三十八万四千三十四封度ノ巨額ハ即チ左
ノ仕譯ノ通リナリ

合百三十八萬四千三十四封度

内譯

五萬三百七十七封度　ヒラテルヒア府博覧會費
八千九百九十封度　金銀精製費
百壱万九千二百四十封度　華士族家禄給與高
壱萬七千八百七封度　東京四橋再架費
六萬四千封度　東京煉火家費

十六萬三千六百二十封度

六萬封度

右ノ雑費ノ内ニテ全ク従千八百七十五年至七十六年豫算表中
ニ而已属スルモノアリ○従千八百七十六年豫算表
ニ入此等ノ雑費等各省定額金ノ中ニ算入ス仮令ハ華士族ノ
家禄給與金ヲ内國債ノ部ニ加入シタルカ如シ

三菱商會へ貸付金

東京銀行へ貸付金

第四貸付金共ニ臨時費ノ減少ナリ此二ケ條ノ減少明瞭ナリ雖
シ)ハ従千八百七十六年至七十七年豫算表ノ編製方ヲ一変シタ
ルニ因ルナリ即チ従前ノ如ク一途ニ巨額ノ臨時費ヲ備置カス
シテ各省定額金ノ内ヲ以テ其臨時ノ一切ヲ償フ事ニ定マリ
タルヲ是レナリ

故ニ従千八百七十六年至七十七年歳出中増高ヲ生シタル條款
中ニ各省ノ定額金アリ右モ此源因ヨリシテ増額ヲ生シタルハ

只一部分ノ ㄱニシテ大藏卿ハ右ハ各省ノ事務擴張セシニ因ル
ㄱ不少トナセリ仮令ヒバ大藏卿ハ其豫算表創言ニシテ内務省
所轄ノ事務ハ殖産奨励ノ ㄱニカヲ添ユルヲ以テ一層擴張セシ
ㄱ、海陸軍ニ於テハ人員並ニ軍器共増ニ至セシ ㄱ、ユ部省ニ於テ著
ルシク堀礦ノ業ヲ擴ケタル ㄱ及ヒ地方裁判所増置ノ ㄱ、地租改
正ノ ㄱハ司法省及ヒ地租改正事務局ノ費用ヲ増加セリト
然レ𪜈既ニ諸官廳ノ定額金共地租ノ減額丈ケ減省スベキ筈ノ
行違アリ尚又次キノ會計年度ノ豫算ハ凡ソ百三十六万六千封
度ヲ減少スベキ者ノ内達モアリタリ
其他従千八百七十六年至七十七年歳出條目ニ増額アリシモノ
ハ此報告書中第二篇ニ掲ケタル國債ノ償却、皇俸、太政官、東京巡
査、及ヒ府縣ノ修繕費ナリ此ホハ別ニ注目スベキモノナシ

末章

熟惟スルニ日本ノ理財上ニ於テハ地租ヲ軽クセンㄱニ心ヲ帰
スルニアリ抑モ地租ヲ軽クセントノ心ヲ帰スルニアリ抑
土地ハ地租ノ外ニ尚地方ノ事務費ノ為メニ巨額ノ費用ヲ拂フ
モノタリ畢竟華士族ノ禄制改革ノ布告此後又メル勿論處置ニ
出テタルト雖モ実ニ欠クベカラザルモノタル明ラカナリ)ヲ出
シタルムヘシレカ為メナリ又新ニ諸税ヲ賦課シタルモ之レヨリ
出テタルニアリ外國トノ修約中税則改正ヲ欲シ以テ少クモ奢
侈ニ属スル輸入品ニ一層重税ヲ課セントスルニ皆此意ヨ
リ生スルモノタリ
酒税ト煙草税トヲ除キ新ニ賦課シタル諸税ハ試ミニ取設ケタ
ルモノ、如クニシテ此ホノ新税ヲ以テ真ニ歳入ヲ増加スルヤ
否ヲ豫知スルハ難シ又海關税ヲ増シテ果シテ税関ノ収入ヲ増
スヤ否ヲ明言スルㄱ等シク難シ然ルニ國内ノ製造品ヲ以テ國益

ノ一大根原トナリ即大藏省ニ取リ歳入ノ源因トナル迄ニハ
歳月ヲ経サレハ能ハサルヘシ
之レニ因テ地租ハ永久ニ又レク歳入中第一ノ條款タラスンバアル
ルヘカラス随ツテ國内ノ農業ヲ勧奨ノ道セレムルハ最モ緊要
ノモノタリ
此目的ヲ達セン為メニハ内外ノ平安諸官廳ノ大節倹内地ヘ良
キ車道ヲ取開キ通路ヲ便ナラシムルト及ヒ交換紙幣ヲ用ユル
ニ差向キ欠クヘカラサルモノトス
大藏大輔ガ也メテ余ヲレテ信用セレメントスルガ如ク果レテ
過ルニ年間ノ豫箕表ハ可ナリ正レキモノナンニハ既ニ國家
ノ進歩今日ノ形勢ニ至リタルヲ考フレハ日本ノ會計ノ景況
ハ不満足ノモノト見ヘスス會計ノ景況斯ノ如クナレバ政府ヲ
レテ益々西洋文明諸國ニ於テ有益トスル所ノモノヲ採擇レテ

其國ノ進歩ヲ奨勵セレメスンハアルヘカラス
政府カ少クモ人智開達ノ一原トナレモノニ付充分ニ之レヲ
解ナスヿハ其常ニ上下ノ區別ナク普ク人民ニ教育ヲ弘ムルヲ
緊切トスルヲ以テ既ニ顕然タリ其他政府ガ國家幸福ノ源因ニ
何意ヲ入レサルト想像スルハ不正ナルヘレ此報告ヲ書キ終ラ
ントスルニ臨ミ大藏大輔ヨリ報道ヘレ所アリ云ク從千八百七
十七年至七十八年豫算表ノ會計年度即チ七月一日以前ニ公布
スヘレ將又過ルニ年内ノ歳出入決算表モ当時調製中ニ付全様
不日公布ニ至ルヘレト

千八百七十七年三月二日

於東京

オーグスト、エッチ、ソンセイ

「マウンセイ」氏ヨリ日本會計年間豫算表公布遷延ノ儀ニ付「パークス」氏ニ宛テタル書翰

去三月二日附ヲ以テ拙者ヨリ差出シタル日本會計上ニ関スル報告書ノ末章ニ於テ従千八百七十七年至七十八年豫算書ハ會計年度ノ初メ（来七月一日）ニ先立チ公布ナルベキ由ヲ松方公ヨリ兼知セタル旨ヲ開陳シタリシニ日右ノハ薩摩暴動尚未タ鎮滅ニ付カザリシガ為メニ豫算表編製ノ都合ニ至リ難キ事情モ之レアルベクト存シ六月二十五日松方公ヲ訪ヒ此ノ事ヲ訊問セリ

松方公ノ云ク拙者ノ推量スル所果シテ當レリ實ニ遺憾ニ堪ヘザレドナガラ大蔵卿ニハ此主旨ニ付最後ノ面談ノ節マデハ兎テノ所存通リ公布ス可キ見込ニテアリシガ其儀ハザルベシト又同公云ク一人トシテ此暴動鎮静ノ期ヲ日今ニ

外務省蔵

於テ豫知シ得ル者之レナシ到底暴徒鎮壓ノ費用ヲ豫算シ得ル迄ハ豫算表ヲ編製スルヲ能ハス故ニ同公ハ豫メ其公布ノ日限ヲ定メ得ス去リナガラ同公ハ公務多端ノ際ナルモ尚過ル両年間ノ歳出入決算表（決算報告書ナリ）ノ公布久シク遷延セザランヲ希望スト云ヘリ

抑豫算表ノ公布遷延ノ所以ニ付松方公ノ余ニ述ベシタル理由ニ付テハ苟モ今日大蔵卿ガ此難事ニ膺リ一身以テ之レニ任スルヲ知リタル者ハ何人モ之レヲ解セザルモノ勿ルベシト思ハスル者ヲ同公ニ述ベタリ尤モ可成丈早ク決算表ヲ公布スルハ日本ノ為メニ最モ得策タルベキ旨ヲモ話レリ

松方公モ余ト同説ノ由ニテ此等ノ事件ニ余カ関渉スル旨ヲ懇謝セリ

千八百七十七年五月三十一日　　エ、エッチ、マウンセイ

ソル、ハアリー、パアークス宛

大藏卷